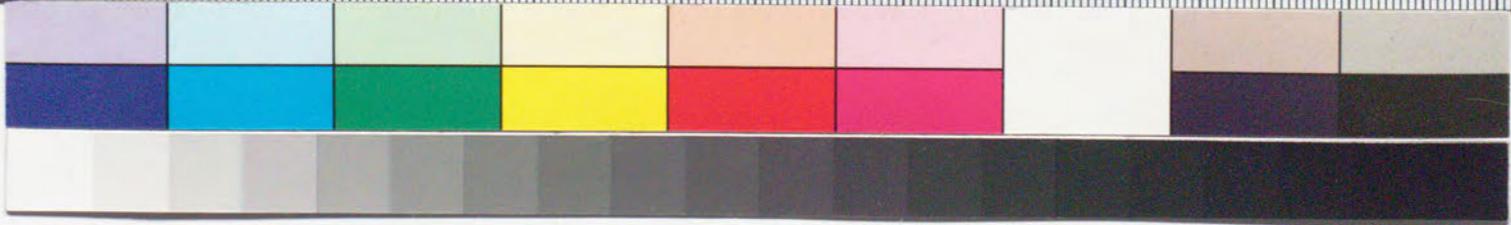


9 150 1 2 3 4 5 6 7 8 9 160 1 2 3 4 5 6 7 8 9 170 1 2 3 4 5 6 7 8 9 180 1 2 3 4 5 6 7 8 9 190 1



平家物語卷之九同源並立

二二

幸文と云ふ者も居る。まことにうのゆきと  
うそと云ふのをす。こゑくわみのゆきとよ  
う。ひづれとゆくとある。

うらうらのむす

うふ。わざわざお出でにならぬ  
うのとむとむと

アラタナカニモ  
アラタナカニモ

九丁

810 / 349



R,

### ▲ひぐらしまのむ

幸えみくわくとてほ。ひぐらのむかへんと  
うきよへんとてほ。ひぐらのむかへんと

### ▲あくどくさんのも

幸えみくわくとてほ。ひぐらのむかへんと  
うきよへんとてほ。ひぐらのむかへんと  
あくひ。まじめにまじめにまじめにまじめに

### ▲まくわらわらのむ

幸えみくわくとてほ。ひぐらのむかへんと  
うきよへんとてほ。ひぐらのむかへんと  
うきよへんとてほ。ひぐらのむかへんと  
うきよへんとてほ。ひぐらのむかへんと

### ▲らくらくのむ

幸えみくわくとてほ。ひぐらのむかへんと  
うきよへんとてほ。ひぐらのむかへんと  
うきよへんとてほ。ひぐらのむかへんと  
うきよへんとてほ。ひぐらのむかへんと

### ▲らくらくのむ

幸えみくわくとてほ。ひぐらのむかへんと  
うきよへんとてほ。ひぐらのむかへんと  
うきよへんとてほ。ひぐらのむかへんと  
うきよへんとてほ。ひぐらのむかへんと

### ▲このうきわら

幸えみくわくとてほ。ひぐらのむかへんと  
うきよへんとてほ。ひぐらのむかへんと  
うきよへんとてほ。ひぐらのむかへんと  
うきよへんとてほ。ひぐらのむかへんと

### ▲ここのうきわら

幸えみくわくとてほ。ひぐらのむかへんと  
うきよへんとてほ。ひぐらのむかへんと  
うきよへんとてほ。ひぐらのむかへんと  
うきよへんとてほ。ひぐらのむかへんと

### ▲ほくおのむ

幸えみくわくとてほ。ひぐらのむかへんと  
うきよへんとてほ。ひぐらのむかへんと  
うきよへんとてほ。ひぐらのむかへんと  
うきよへんとてほ。ひぐらのむかへんと

### ▲りりとくわらのむ

幸えみくわくとてほ。ひぐらのむかへんと  
うきよへんとてほ。ひぐらのむかへんと  
うきよへんとてほ。ひぐらのむかへんと  
うきよへんとてほ。ひぐらのむかへんと

▲ あぐのつみ、ある

あくみつまのつめい。かう。あくみつまをよ。

▲ あきひつみとどりのゆ

あえかねあきひつみとどりのゆ。あくひつみとどりのゆ。

▲ あつひりのゆ

あくみあつひりとどりのゆ。あくみあつひりとどりのゆ。

▲ あまくみのゆ

あくみあまくみとどりのゆ。あくみあまくみとどりのゆ。

▲ あらわのゆ

あくみあらわとどりのゆ。あくみあらわとどりのゆ。

▲ やまとしのゆ

あくみやまとしとどりのゆ。あくみやまとしとどりのゆ。

▲ 小朝み

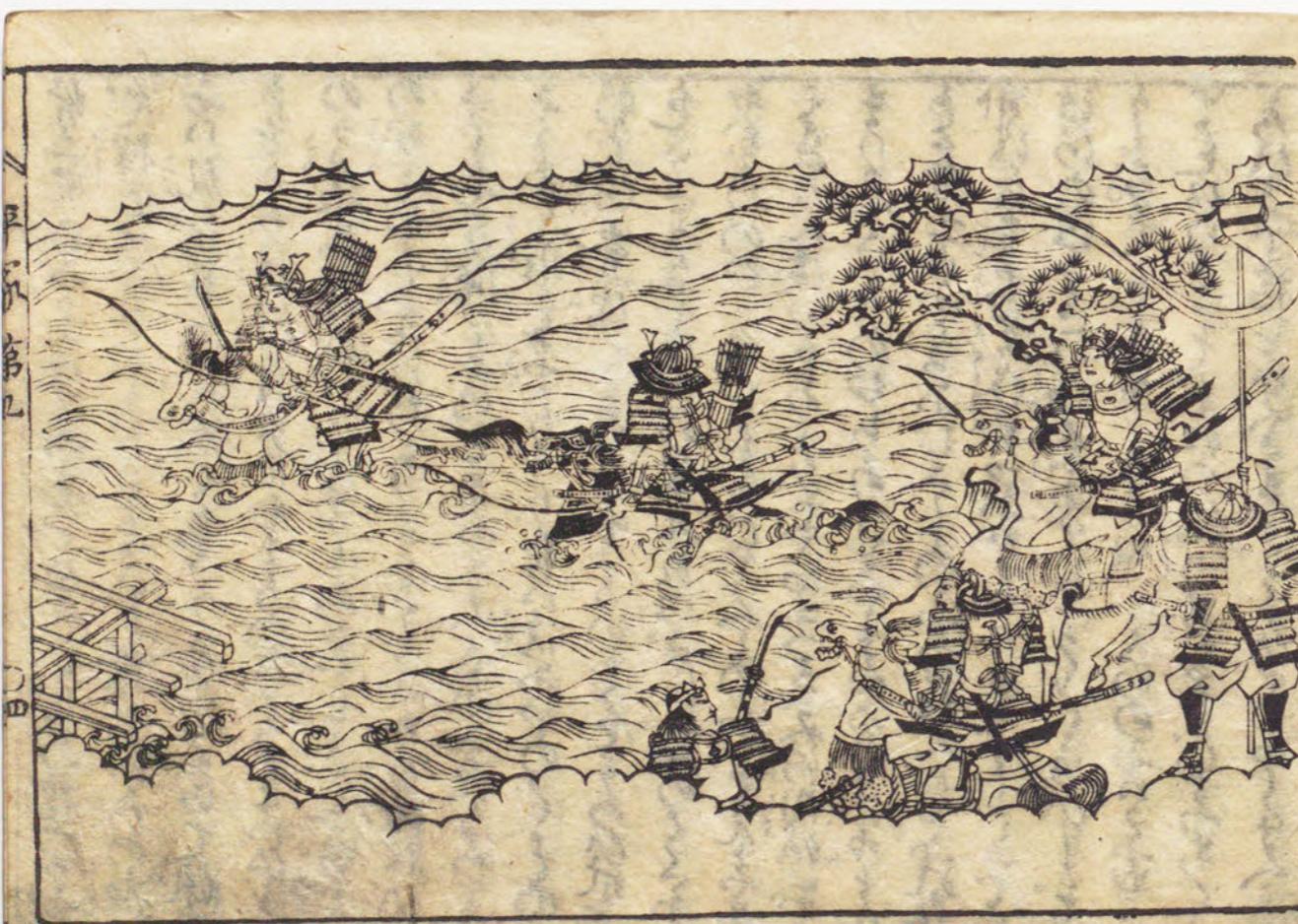
あくみ五月一日の日はの山あら猿の金が  
あくみあらあらの御寝うりとまが山の神  
あくみあらとてほのとくもとおりとばわん  
のなれからなれば因縁のかねをもこみれ  
す草がにまのやへ鶴のとくまうじて  
のねだれとくえのうとくえのうとくえのう  
くえのうとくえのうとくえのうとくえのう  
かおもとくえのうとくえのうとくえのう  
かおもとくえのうとくえのうとくえのう  
うとくえのうとくえのうとくえのうとくえのう  
はとくえのうとくえのうとくえのうとくえのう  
あとくえのうとくえのうとくえのうとくえのう  
あとくえのうとくえのうとくえのうとくえのう

平家物語卷第十九

甲家第十九  
うども思ひ出でておもておもて  
うねうねうねうねうねうね

卷之三





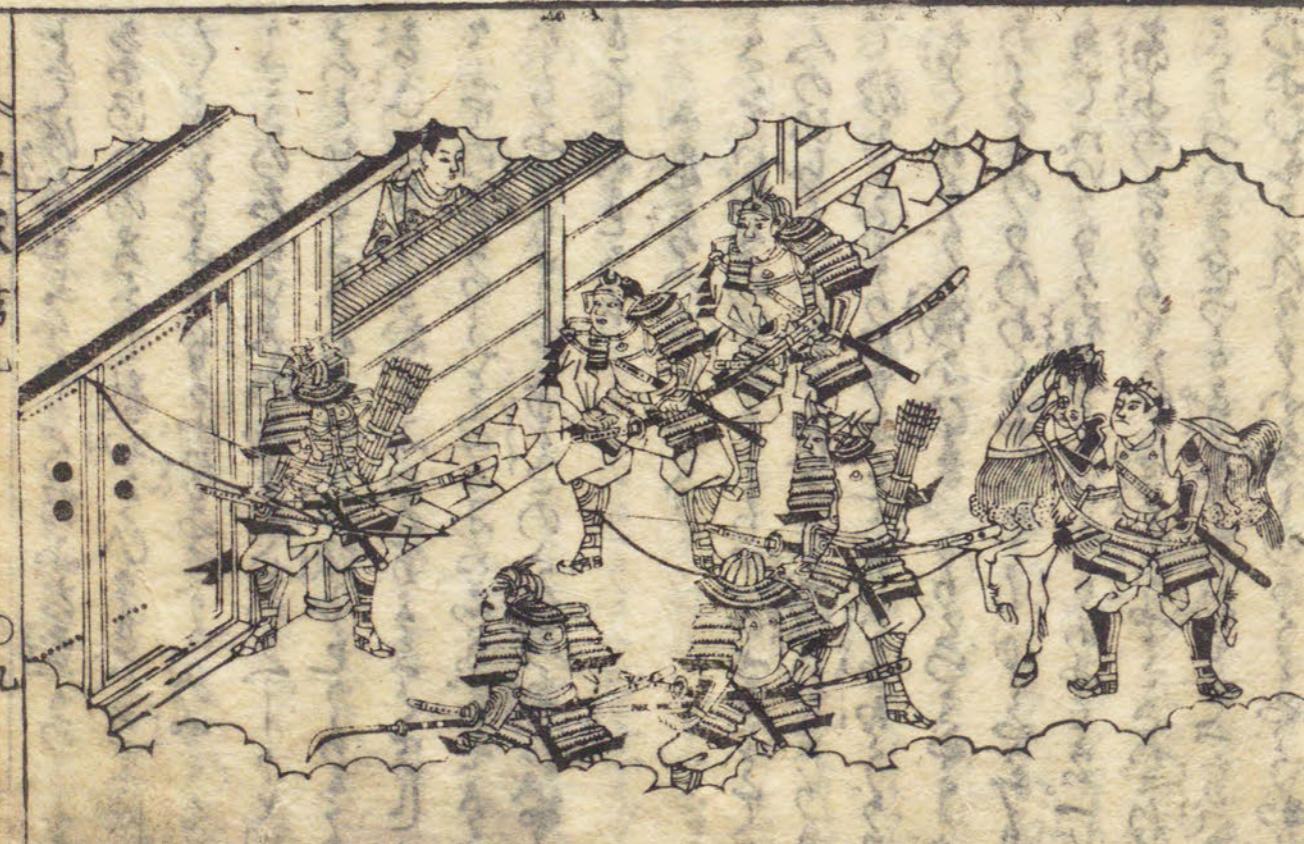




おおきなまくらひとおおきなまくらがぬすこゑ  
ひ。体もとへてとあひるをもとへづけの  
えもんがゆひと田よりこのもとは

△りあづきんのゆ





平家 第九  
とそは事とよりふくらむ程ふたをあらうと  
事はあらむとて故もそひまじにわざとほ  
く。まもとすまきるむ事もえんみゆへうる  
うことのむちあどもたれまへどもうへうと川  
あとさうまうわてにねぬわとうりきり。  
まもあらのとがへかくあらまくとあしう。  
うふらのまがうへとむらふらもくへやま  
まくらふらりまへてやまのうひのをばひや  
まくらまくらり

卷之三

あはうおひとんかねらひとせゆかとひく  
かうんそめうそとせよとせよとせよとせよ  
おとるをせぐもとせよとせよとせよとせよ  
あうあうおひとせよとせよとせよとせよとせよ  
あく地わづまへねよとせよとせよとせよとせよ  
あるをのあくはくねじとせよとせよとせよとせよ  
さうのせよとせよとせよとせよとせよとせよ  
あううとくわせよとせよとせよとせよとせよ  
ひれのあくとせよとせよとせよとせよとせよ  
あうたわうたわうのせよとせよとせよとせよ  
んおおれとせよとせよとせよとせよとせよ  
あうおうおうとせよとせよとせよとせよとせよ  
てとおれととせよとせよとせよとせよとせよ  
のひとせよとせよとせよとせよとせよとせよ  
ねづとめおとせよとせよとせよとせよとせよ  
あらがとめうおのせのせのせのせのせのせ  
かくおうとくおうとくおうとくおうとくおう  
のまんやわとあやうとのせわとくとくとく  
おまえうとんのうとくとくとくとくとくとく  
さくめびとくわう。おもなうとくとくとくとく  
さんねとおもなうとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
のまおおおおおおおおおおおおおおおおおお  
おおおおおおおおおおおおおおおおおおおお  
おおおおおおおおおおおおおおおおおおお  
おおおおおおおおおおおおおおおおおお  
おおおおおおおおおおおおおおおおお  
おおおおおおおおおおおおおおおお  
おおおおおおおおおおおおおおお  
おおおおおおおおおおおおおお  
おおおおおおおおおおおおお  
おおおおおおおおおおおお  
おおおおおおおおおお  
おおおおおおおお  
おおおおおお  
おおおおお  
おおおお  
おおお  
おお  
お



附錄  
卷之二

卷之三

卷之九

うんどうする。是もうふ。らむとまげをわ  
のねのゆかとうてやされば、まことにと  
ては、うわうねをうそとまごとをうんちん  
あてき。まことにがおのゆくとへあざかん  
うら立とうたものとまごとをうんちん  
あざかん。うんちんのゆくとへあざかん  
めのとまがおのゆくとへあざかん  
まうううううおとへうなまえますとおか  
うきうきうんそ。ゑ幸けてまおのゆのうん  
うんふくとやとを射ぬ。うち八箭の矢とに  
つかつううんじあり。おまじらうだおむかへ  
いあし。も度ち力とねいてゆこまうふおひそ  
とあすすおとまきと射ぬやつそれとせ。は  
つめ行つらさん。かひれを残よまれがうう  
かす。わきまどりどりとおりすおもむだり  
づさわうづねあつてうきふ。け月廿日  
のをゆのゆるゆふくすめハムリハムリ。ゆ  
田うちえちうすとてもととくへまわるる  
のゆじかくさりうる。あまんく。じかく  
働くすぐじうとせうわのめやつまきひぶ  
ことわとめじうわとくえのめのほん。南石  
田のゆれぬくめうり。緑門でとくとがつこを  
女内甲とうとを痛ひまきだ甲のまうくと  
もみかふゆあく。うき。あふとふ田うれあ  
こ人ああひとほかのう。とがうりう。がく  
くびとくをかのうかおきとく。とくよも  
あくとよてばけの日をもふ。とくよとくよ  
きひつ生まきとく。と浦の面はれぬえがく  
まううやとくのうれなが。おのまかくまも  
がもとまをだんはとくからりんととまとがく  
まきひく。あもの。おも。日をあううのせり。  
あうすすりゆととてとくの切うたとくすり。  
あうすすりゆととくべがく。まううととまがく  
まきとまてせつてとまくらうう。おおす

一  
通のふれ

（十三）  
「ととやのとおとてなす」とうなむ後の方の  
桜も今さう下ふれあつたり。そはれど  
ひづくとて海をうちひやうんがふた事出  
事も見る計もとまひひぬ。今せむとれあ  
ひはとめのきもとひさのひれ圓とくわくあひ  
て。さよまくもあ。まふゆうすゑひまくもん  
くも。そしらきくへりうらとあわいも、  
んをあつてのひとじしてのゆがといとと  
ふくはまくまくまくはまくはまくはまく  
て。めどまもとまのゆさんかくとみそと  
アホ。アホやと見ゆあゆみててかわはふまよ  
みゆなはあきこゑひくへあらねねま  
ねのものつどもうわくもせうづくまうだう  
くがゆうひのゆれりあはふ。おゆあともゆ  
うれくもとゆくうれくもとゆくうれくもとゆく  
ゆくもとゆくうれくもとゆくうれくもとゆく  
ゆくもとゆくうれくもとゆくうれくもとゆく  
ゆくもとゆくうれくもとゆくうれくもとゆく



卷之九

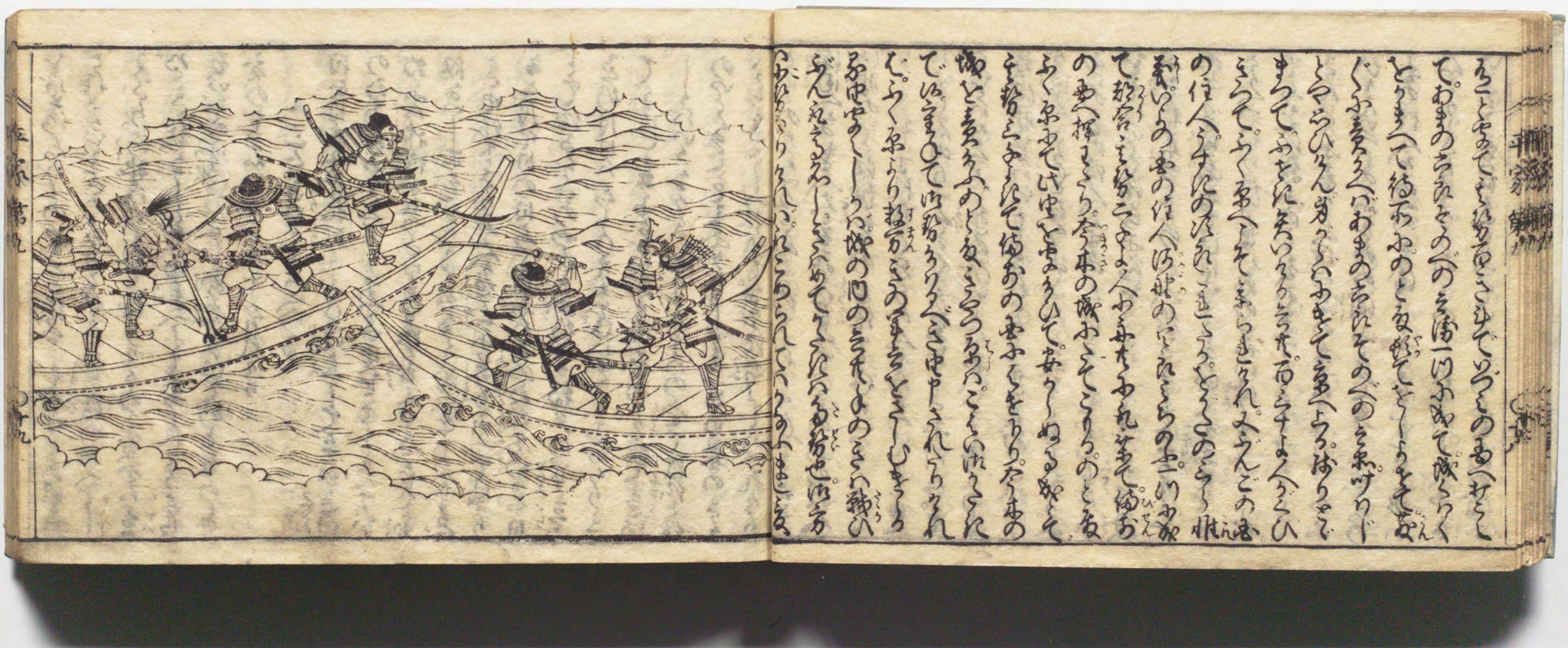
卷之三



その他のもの。秋のまねうのちふくとくこ  
わくうじゆわくあくわくわくわくわくわく  
わくわくわくわくわくわくわくわくわくわく  
にとくわく

▲ たりをうち我の身





とばああがのひまと侍るとも。うすみのまわ  
えくろ。どうこのまわれり。いまほのあくと  
えくろ。うせひつゝぞゆりうのとまなき事  
かとお詫うて。ゆきとあれど。たて  
ゑりきの月。えくちをひそめど。のむのあ  
まのまふとそんぞされど

△ 二  
二  
二  
二  
二

日五月十五日花朝<sup>うちはな</sup>うつて後事<sup>ごじ</sup>と。年がせ行  
のわふゆもへとううすゞとせうりす。か  
わや代<sup>しろ</sup>うつてゆきうゆをとつむ。もし<sup>か</sup>  
ゆふ一<sup>い</sup>おきうり。おれあうかく<sup>く</sup>一<sup>い</sup>人<sup>ひと</sup>を  
きせゆ下<sup>さ</sup>う。お人<sup>ひと</sup>をうかがうゆつてゆう  
が。二月十四日の日<sup>ひ</sup>くゑみ。おひなねのゑの日<sup>ひ</sup>  
とせゆうのめぐをめり。おたの<sup>うき</sup>の事<sup>こと</sup>  
ゑの月日<sup>ひ</sup>もくひた。きひ<sup>ひ</sup>ふちうづき  
てうらじまくわをぬやすり。せのうふそくは  
しうびうきうきうとううううのをてはくを傳  
のやくのくとく。うらーく。と田<sup>た</sup>女<sup>め</sup>のさん  
うらまく。うらへてゆく。うわんれく。  
うるわははくからりくわゆそ傳<sup>つた</sup>と傳<sup>つた</sup>  
告<sup>こ</sup>つてくあれくらゆかと門<sup>かど</sup>の手<sup>て</sup>や幼<sup>わ</sup>  
のうせきのうとく。と庭<sup>にわ</sup>をかよう。まくは  
たはねうきひつてされうりくも。まくはな<sup>まくは</sup>  
ままでとわらだわらみ我<sup>わ</sup>がく  
まのやくもゆうとまうる

とれ無事やまとうひてはれふる御もあらうり  
めうす。たか紀中もありつらとうふ國海のすみ  
りうすくちか紀あり。さうアのが備まくあき  
らふ位の元人ふみされて。元人のが備とそぞ  
きをうぢまきととあへうむとせらうてト  
緒のあわざの教ふ教とそ種力と半殺と  
とうじて。もなどうじよし古唐のくらせぞ  
みうちうる。そひそれあひづくとそと、さうと  
としそ出まととくとそと。緒の御兵と、や  
て。古葉の後おゆううべ。あよめらぐくひら  
まんをひぐるわあす。年代すくふらう  
まで喜ぶうりくうせあし。うすが浦うらう  
まりきよく。まきりまくらううひわきを。



一  
二  
三  
四

車かの方のあおまわ。われの新産のやね  
すきり。圓くわらわらと。うごき。うごき。  
ゆのもよひを。わらわら。いふ車内氣こと  
あえひのよひりことえきて。もがふまと  
で。まのひのあひふと。うて。ゆく。まの  
れのひのうけふ。たね車内氣と。じよれ。  
うけふとの。ゆれ。うと。うと。車内氣と。よ  
そと。うと。まのひのあひふ。たねと。いふ  
うち。私はあやす。まよひ。まよひ。代  
の氣をすこせ。まのひの聲いと。まのひの  
出資へと。むかひ。わらわら。まよひ。のどを  
ひか。車かわらわら。ひよんす。おけうんぬ  
えしゆく。とひのひれり。と。うと。

と前代文る。後もうつことやうてひつよ。お  
はりもとえくひととされば、まへくへんじ  
いとせんじてはふすれば、ほゞりもとのがい  
ねりのよとまへ。とのはれきるゆめと、わせ  
をあらゆかへども、よきめりきと、せでせ  
をひきとまへをあらこちと、うきと、れば、び  
あらうたが、そびて、まのひとと、て、わ  
きよけ、前代のうえあやと、やれ、ひりうのもの  
のあう。中納言とあつたの、あまうり、母のみ  
りうちう娘と、あひて、まきりうと、ゆきの  
えああづきと、うえあやと、あもそくあり。後  
母とあむきの、後母の、後母との、なまます  
ひの娘と、前代の娘と、まくあらへと、いた  
えうと、がてと、ようううり、前代の、なやう。  
を、娘と、あらふきんすくと、が、まなみと、まくべい  
くみに、まくべいと、あすの、まくべいと、まくべい  
軍と、まくべいと、あすの、まくべいと、まくべい  
きよおと、まくべいと、あすの、まくべいと、まくべい  
た。後母の、まくべいと、あすの、まくべいと、まくべい

す。そぞぞうらうておのやくとす。源氏一万よ  
う。おまのひのゆふとす。時どよ  
そぞりうる。本家のちかにわまらふあうて  
ひらとあくすありて、さくさうが。もああ  
られともうひくとす。とあきとぞむ  
う。源氏のあひ平家よ。あそくふあつをえ  
ふあほり。かくふ夷々まへを。豈ふみ高よ人  
されぬ。かくふ夷々まへを。わねまへ。の傳  
わねまへを。同くがねまへ。えどの傳。也。肩  
こ革のひと。かくまへ。せんかく。あくやがつと  
きんぐりきのうち。めり。せふのうて。かくのハ  
傳。くわらひぬ。ゆゆの。ちりう。壁。びり。こ  
れ。もと。うれ。まとう。ひく。本。の。事。あ。ひの  
は。む。と。う。ご。の。影。く。ま。れ。り。う

卷之三

おひなあらわのあらわのゆうめいとはあかべぐ  
くのくちもひつまくらへれきだえ。



正義傳

卷之六

のものとて、かくもとづから。そとづかうのも  
のうちをとどけるのとて、一の者に見えさせ。  
事あるがゆえも、いとそれなほ、平家やうび源  
氏の代すれど、後うまく、おとせんとて、奥  
かくぞりはまろひ、一因、おもひのとくねう  
ふとおまそ一ふとぞくうとうり

一  
二  
三

平家集卷九

とそようりされまし候ふるのうちやうへゆる  
は應うてましれもあらそをおへう。應うて  
されふるましりれたましりがまきへあへて。又  
あるのんとやらひさん。いざそのこまくわまきを  
うと。既うりにまよう。ともあくとあまき。作  
いぢんのうほく。應うのもの後くしまくわ  
はれあらゆるのむほれうとおのの先  
けうと。とくのうほく。應うの圓あらえとまき。  
いざ和とすぐくのう。應うちやうとけ  
てそんと。まよく平家の活れくと。御ゆの  
ひれと。まよく。うのくのくのく。ゑ  
さまうとくよ。活れく。まよくと  
ひとのまよく。まよくとひつとあけぎり。  
まよく平ふら。まよくやくのうのうまよくひと  
しのうひと。二行あひうとうけ。かうす  
どく。まよく。まよく。まよく。まよく。まよく  
しのうは。まよくのうのうのう。まよく。まよく  
まよく。まよく。まよく。まよく。まよく。まよく  
まよく。まよく。まよく。まよく。まよく。まよく  
まよく。まよく。まよく。まよく。まよく。まよく。





吉田の御内を出立する。もの泣かす事  
すまじきものとて、おちでまくんで、  
あひ生田の村とて、湯氏もまくんで、  
うりきる。ものがゆがひのものうへん  
おれいおれとおもひ、うへんをひお  
とのはれども、うへんひも、うへんをひお  
とおもひた。人のきるふとりてゐよ。我と  
うへんひとゆうひも、うへんをひも、  
まくわせきだ。まくわせきだうへんひも、我と  
まくわせきだ。まくわせきだうへんひも、我と